

2015 年度「しょうがい者と災害を考える」学習会 ーサポーター勉強会ー

しょうがい学生支援室

【日・時】2015 年 7 月 3 日(金) 16 時 20 分～19 時 30 分

【講義担当】減災ソーシャルワーク 吉村千恵先生

【目的】昨年に減災 SW の授業に加えて頂き「しょうがい者と災害を考える」学習会を実施した。今回は前回に続き 2 回目をサポーターリーダーを中心に企画し実際にしょうがい学生をサポート中に災害に遭った際の対応を学ぶ機会とする。また、新たな気づきを大学に災害対策のひとつとして提案する。

【場所】427 教室・校内(総合グラウンド、学生会館 1 階)

【参加者】サポーター47 名、しょうがい学生(車いす)4 名



【スケジュール】16 時 20 分～ 本日の概要説明と前回(12 月 17 日実施内容振り返り)、階段にて車いすのおろし方レクチャー。16 時 40 分～ グループに分かれ実際の災害時を想定し体験。17 時 00 分～ 地震速報(訓練用)音声流す。※エレベーター、電話、メールは使用できない状況設定とする。

⇒ミッション①しょうがい学生支援室に安否確認(どのように支援室に連絡するか)。②しょうがい学

生支援室から避難場所の指示(総合グラウンドを予定)※強雨の場合は、学生会館 1 階。

③避難場所へ移動(集合・点呼)⇒427 教室に戻る。④17 時 50 分～ 休憩(10 分)。⑤18 時 00 分～ グループ内で気づき、提案などをまとめる。⑥18 時 40 分～ 発表(427 教室)。

⑦19 時 30 分 終了。

ディスカッションの内容：まとめ

【グループ A 班】

・地震が起こった時はみんなパニックになっているので、事前に避難体制を確認しておく必要がある。

・みんなが階段を使うと階段が混雑しているので、それを想定した避難体制の確認が必要。日頃からサポーターと利用学生でコミュニケーションを交わし、信頼関係をつくっておく。(言いたいことや要望を言いやすい、または伝えやすくするため)。サポーターも友人、知人、サークルメンバー等に車いす学生の避難援助について声掛け、または方法を教える。



- ・車いす講座、避難訓練を行う。
- ・あらかじめ、避難経路を複数設定しておく(避難場所も含む)。
- ・車いすの種類と取り外し可能部分を把握する。
- ・独自の避難マニュアルを作成する。
- ・使えないかもしれないが、連絡網を作成する(緊急時に備えて)。
- ・揺れている時に車いすの人はどこに隠れたらいいか。
- ・階段をおりる時に車いすの人が占拠するから、本当におりれるか心配。
- ・避難場所がグラウンドで良いのか(雨の時など)。
- ・支援室への連絡は、支援室に行くまで大変だと思う。
- ・避難場所の詳細(〇〇の××とか)を詳しく決めておく。
- ・人材が確保できるのか。
- ・大学しっかりしてください(切実)。
- ・災害用伝言板の使用。
- ・大学全体として、どのように避難するのかを大学側が提示すべき。
- ・今後もこういった勉強会を開催してほしい。また、サポーターが車いすを体験してみるのはいかがでしょうか。

【グループB班】

・車いすの学生さんに、どのような方法で階段からおろせばよいか把握してもらい、最初の顔合わせ会で話し合う。難しいと思うけれど、電動車いす1台でも大学の予備があれば、最悪のケースでも少しは違うのではないかと思います。



・顔合わせ会の時に、今回のことを事前確認しておくのが良いのでは。車いすに乗っている学生に、車いすの持ち方とおろす方法を決めておいてもらう。それを顔合わせ会で伝える。サポーター勉強会にとどまらず、学園の中の一つの行事として災害時の想定をした訓練を行うことで、日頃から災害と自分たちとの生活が近いものなのだとすることを念頭においた暮らしができるのではないかと。

【グループC班】

- ・揺れたとき、バックなどで頭を隠す。
- ・車いすの転倒防止の車輪が動かないようにできたほうがよい。
- ・安否確認の場所は、建物の中ではない方がよいと思う(建物の中に戻ると危ないのでは)。
- ・車いすの人との声掛けが大切。

- ・もう少し丁寧な説明があるとスムーズに動けると思う。
- ・一度、リーダーのみでリハーサルをやってみては？
- ・個別計画の作成いいですね。介助用の普通の車いすで経験を積んでから、特殊なタイプの車いすで講習を行った方が良かったのかなと思った。避難する時は男性の方に協力をお願いする必要があるのかなと思う（車いすの人を安全に移動させることができる面から考えると）。
- ・車いすの写真を撮り、「前の人はこことここ、背面の人はハンドルとここを掴むと安定する」という事項を写真に書き加えて、それを常備しておくというのはどうだろうか。
- ・日頃から訓練をしておくことが大切。定期的に今日のような勉強会が必要。
- ・車いすによってもパーツの大きさ、長さがこれだけ違ったのには驚いた。何か手動と電動それぞれの車いすで統一の規格や平均的な大きさを決めるのはどうかなと思った。

【車いす利用しょうがい学生】

- ・カバンなどで身を隠す。
- ・この人はこの人が避難を手伝うというようなグループをあらかじめ作っておく。
- ・サポーターさんも知った友達もない授業の場合、そうすればいいのかと思った。自分の車いすのどこを握ってもらえたら支えている側も自分も安全に移動できるか考えたい。
- ・自分自身も的確に伝えられるようにしたい。

【サポーターリーダーWさんの感想】

昨年12月17日の「しょうがい者と災害を考える」学習会の2回目として、しょうがい学生のサポートをしているときに災害に遭った際どう対応するかについて学びました。

車いすでどのようなやり方で階段から下ろすか、皆で学びその後グループに分かれて実際の災害時を想定し、避難体験をしました。

今回の体験で分かったことはしょうがい学生の車いすの種類が異なるため、避難の違いが生じることです。災害はいつ起こってもおかしくないので、サポートに入る際にはしょうがい学生に合ったサポートを考え、想定しておかなければいけないと改めて感じました。

【支援室からの感想】サポーター勉強会で実施した、車いすを階段から降ろす際に「地震でエレベーターが停止」を想定し、4号館の2階から1階に降りて外へ避難をする体験をしました。4号館の階段幅が校舎の中でも比較的広いのでなんとか無事に降ろせましたが、これが11号館で地震や火災があってエレベーターが停まったらと考えると、階段幅も狭く降ろすのも一苦労だと感じたところです。普段バリアフリーに着目しすぎて階段のことを忘れがちですが、災害時に車いす利用者自身が落ち着いて行動し、車いすのどこを持っても

らったら安全か、どのように抱えてもらったら無理がないかなど考えておくことも大切だ
と思いこういった災害について考える機会を定期的につくることも大切だと感じました。

